

科目名	仏教学特殊講義I							学期	前期	
副題	死後の世界を考える				授業方法	講義	担当者	川崎一洋		
ナンバリング	M3-02-221	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5		単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

日本人の死生観には、仏教が大きな影響を与えている。この講義では、仏教の文献を資料としながら、インド、中国、日本の人々がそれぞれ考えた死後の世界について紹介し、日本人の死生観の淵源を辿る。また、死者儀礼にも言及し、葬儀や年忌法要などのあり方や問題点についても考察する。

## 授業の到達目標

仏教が伝える死後の世界について考察し、日本人の死生観を習得する。

## 授業計画

1. 現代日本人の死生観
2. 西洋人の臨死体験
3. 東洋人の臨死体験
4. 閻魔さまとはどんな人か
5. 地獄とはどんなところか
6. 極楽とはどんなところか
7. 輪廻転生説のゆくえ
8. 釈尊の死生観
9. 中国で成立した『盂蘭盆経』
10. 古代日本人の死生観
11. 弘法大師・空海の死生観
12. 葬儀の意味
13. 戒名とは何か
14. なぜ年忌法要をおこなうのか
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、講義のテーマに関連する書籍やウェブサイトを目を通し、疑問点や問題点をまとめておくこと。(60分) 講義内容をノートにまとめ、講義で紹介された書籍や論文などを目を通しておくこと。(90分)

## テキスト

プリントを配布する。

## 参考書・参考資料等

添田隆昭『大師はいまだおわしますか』(高野山出版社) 梶山雄一『「さとり」と「廻向」』(人文書院) 梶山雄一『輪廻の思想』(人文書院) など

## 学生に対する評価

試験(40%)、質問・発表(30%)、授業参加の積極性(30%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教が伝える死後の世界、死生観について、基本的な事柄を説明することができる。
- (B) インド、中国、日本、それぞれにおいて考えられた死後の世界について説明できる。
- (A) 日本の仏教が伝える死後の世界について、インド、中国、日本の伝統的な死生観を参照しながら説明できる。
- (S) 日本人の死生観について理解し、現代社会におけるその問題点について意見を述べるができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗の僧侶であり、日ごろから檀信徒に接し、実際に葬儀や年忌法要に携わっている教員が、体験や実状を踏まえながら問題を提起し、日本人の死生観や死者儀礼について理解を深める。